

## 昭和8年に採集された植物を整理して

林 幸子\*

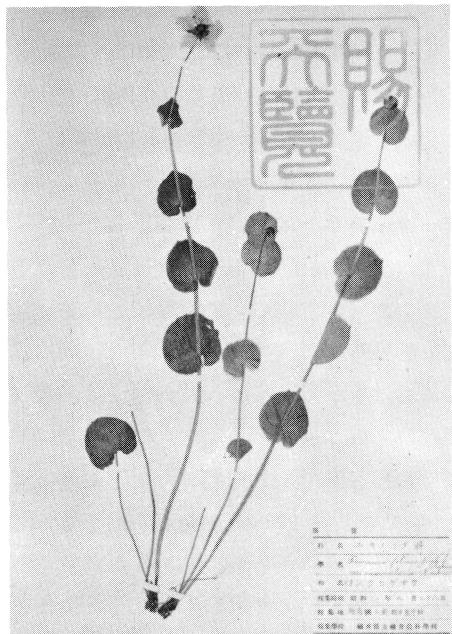
初代館長の堀芳孝先生がなくなられてから7年の歳月が流れた。先生の遺品を前館長の小林貞七先生がいただいて帰られた中に植物標本があった。それが昨年暮まで地下の収蔵庫にしまわれていた。当時博物館は多くの資料整理に忙しくいつか数年が過ぎていた。昨年の3月小林先生からこの標本のあることを知られ、整理するようにいわれた。ダンボールの箱の中に入っている標本は、荒縄でしばってあり、新聞紙も赤茶けて見るからに汚ない感じのするもので、どのような価値のあるものか想像もしていなかった。ところが荒縄をといてみると中からあらわれたのは、なんと今から50年前の昭和8年のものであった。今まで見たことのないものが続々と出てきた。その中に、『天覧賜』の大きな朱印のあるものが12枚もあった。昭和8年に福井県でおこなわれた陸軍の大演習の折、福井県中から採集された植物標本は79,938点あり、この中から1768点を選んで天覧標本としたと昭和8年の植物目録に書かれてある。この時集められたものは貴重なものであったが戦災と震災によって消失してしまったと聞いていたが、その一部分とはいえ幻の標本が手に入った驚きと喜びは大きかった。この中の227点を資料として加えることにした。

このうち特に貴重と思われるもの34点

### 天覧標本

科名	和名	採集地	備考	標本番号
ハイノキ	○クロバイ(ハイノキ)	三方、山東	絶滅? 北限	647
シャクナゲ (ツツジ)	シロバナシャクナゲ	石徹白、大日岳	南限	648
モチノキ	フウリンウメモドキ	大野、橋立峠	稀産 日本海要素	649
キク	フクオウソウ	大野、上打波		650
ユキノシタ	オオシラヒゲソウ	大野、平泉寺	稀産 日本海要素	651
ウラボシ	デバコワラビ	石徹白、大日岳	稀産	652
バラ	タカネイバラ	大野、三ノ峯	稀産 西限	653
ムラサキ	ミヤマムラサキ	大野、三ノ峯	稀産 西限	654
イバラ	ノウゴイチゴ	大野、三ノ峯	稀産	655
ヒガンバナ	コキンバイザサ	坂井、雄島	絶滅? 日本海側北限	656
クロウメモドキ	ヨコグランノキ	敦賀、天筒山	稀産	657
モクレン	○オオヤマレンゲ	大野、橋立峠	稀産 表日本要素	658

\* 福井市立郷土自然科学博物館



オオシラヒゲソウ



ミヤマムラサキ

## その他貴重な標本

科 名	和 名	採 集 地	備 考	標本番号
キンポウゲ	トウゴクサバノオ	今立, 部子山	絶滅?	595
ユキノシタ	ハナネコノメソウ	今立, 部子山	絶滅?	633
カヤツリグサ	ゴンゲンスゲ	大野, 経ヶ岳	絶滅?	634
フウロソウ	ビックチュウフウロ	南条, 堺村	稀産	645
イバラモ	ホツスモ	敦賀, 敦賀	絶滅?	646
オモダカ	マルバオモダカ	坂井, 鶴村	絶滅?	661
ヒルムシロ	ミズヒキモ	丹生, 常盤村	稀産	660
トチカラガミ	スブタ	丹生, 吉野村		666
ミクリ	コミクリ	敦賀, 敦賀		690
フジウツギ	アイナエ	今立, 味真野	稀産	691
オシダ	ウスバミヤマノコギリシダ	三方, 三十三間山	稀産	589
カヤツリグサ	ミヤマイヌノハナヒゲ	大野, 経ヶ岳	稀産	590
イバラモ	イバラモ	丹生, 吉川村		659
ヒルムシロ	ササバモ	吉田, 森田		678
ユリ	チャボゼキショウ	大野, 烏岳		687

科名	和名	採集地	備考	標本番号
トチカラミ	トチカラミ	坂井, 大関村	稀産	688
イネ	オギ	福井,	"	707
スイレン	ヒメコウホネ	大野, 石徹白村	"	709
ミクリ	ナガエノミクリ	足羽, 下文殊村	"	739
イネ	カニツリノガリヤス	大野, 権現山		740
イグサ	ミクリゼキショウ	大野, 上打波	稀産	746
イグサ	ハナビゼキショウ	丹生, 宮崎村	"	805

### コキンバイザサを探す

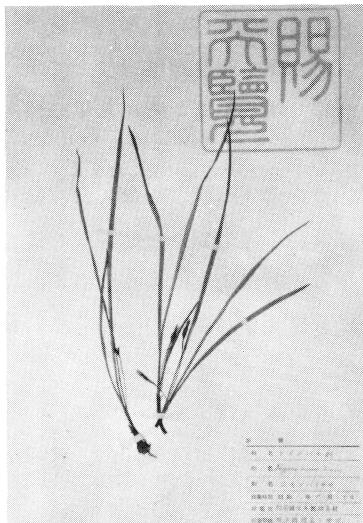
この中の珍品、コキンバイザサは前館長小林先生が新卒で雄島小学校につとめておられた昭和8年に海岸のマツ林の中で採集されたものとわかった。県下から集められた多くの標本を当時の京都大学の田代善太郎先生が見られ、『めずらしいものがあったと大変ほめられたので今もはっきり覚えている』と当時を忍んで先生は話してくださいました。採集地もはっきり覚えているといわれる。それでは花の咲く6月～7月頃に捜しに行こうということになった。

それから数日たって堀口亀次郎先生が館にこられ、先生もコキンバイザサをこの海岸で採集したといわれ、両先生の採集された場所が東尋坊と雄島の間の製塩場のあった所のマツ林だとぴたりと一致した。

花の咲く頃の7月2日、小林先生の案内で渡辺定路先生三田治家先生と4人で現地へ出かけた。この日は夏の強いひざしが照りつけていた。当時でも珍品として、田代先生や堀先生がこの発見を大変よろこばれたこの植物が50年の歳月を経た今、生き残ってくれる事を祈りながら道をいそいだ。『ここだ』と小林先生は自信たっぷりでいわれるマツ林は林床にサルトリイバラ、ノイバラ、トベラ、ササなどがびっしり繁り、容易に入れそうもないが、この中に花を咲かせているかもしれないコキンバイザサを求め、いばらにひっかかるながらもぐりさがしまわった。しかし、この藪の中ではだめだとあきらめざるをえなかった。陽地の草原に生えるこの植物はこの環境に生き残れるわけがないのだ。当時はマツ林の中の枯枝や落ち葉は集め燃料にしたので林床はきれいだったという。

夢が大きかっただけにがっかりしてひきあげた。雄島小学校と三国高女からの二枚の標本が当時を物語ってくれる証人（草）である。

『あった』『見つかった』という報告は普通であるが、『分布していない』という報告は軽々し



コキンバイザサ

くしてはいけないし、今回のように一度の挑戦で『絶滅した』ということは言えないが、50年の歳月と環境の激変を考えて絶滅したのではないかと思われる。今後調査は続けたい。

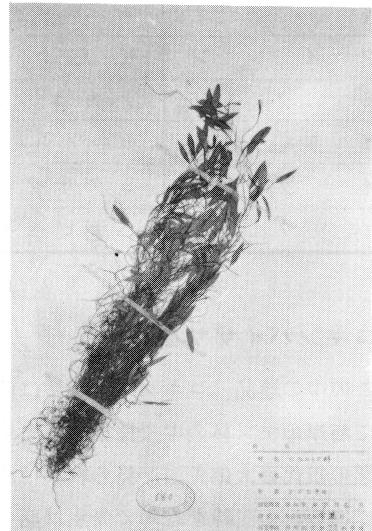
今回でてきた昭和8年の標本の中には、水生植物で珍しいものが多いことに気づいた。マルバオモダカ、ミズヒキモ、ハナビゼキショウ、ササバモ、ホッスモ、ミクリゼキショウ、コミクリ、ヒメコウホネなど目をみはるようなものがあった。昭和8年頃や戦前までは各地に湿地、沼地、湿田が多くたことがうかがえる。

昭和8年の生物目録の中に鶴小学校からたくさんの水生植物の採集品がだされている。今は美田に変わってしまったが戦前川西の八丁で魚つりをした人の話では、田に行くのに小舟に乗って行き、田の間の水路は板を渡して渡ったりした湿田や沼地であったという。昭和の初め頃このあたりにオニバスがあったという記録があり、堀先生と堀口先生が小舟に乗ってさがされたというのもこのあたりで、マルバオモダカ、ガガブタ、ホッスモなどのたくさんの水生植物が当時は普通に見られただろうと今回の標本を見て推測することができる。

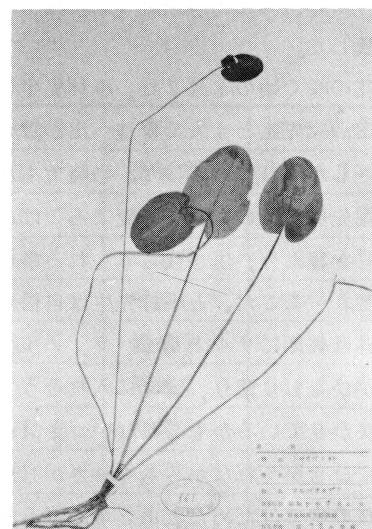
今はめったに見られないデンジソウも田んぼの普通の草だったと聞くが耕地整理などで水辺の植物がつきつぎと姿を消してゆく現実を昭和8年の標本を見て痛感したのでした。

12枚の『天覧賜』の標本は、稀産のもの、北限、西限、表日本から入ってきた要素など貴重なものばかりであることから、堀口先生は多くの標本の中からえらんで、直接天皇にお見せしたものでないだろうかと話してくださいました。

この標本整理にあたっていろいろご指導くださった小林貞七先生、堀口亀次郎先生、渡辺定路先生にあつく感謝致します。



ミズヒキモ



マルバオモダカ